

平成 29 年 11 月

文武両道を実現する二つの新たな取組

岸高に入学するほとんどの生徒は、部活動や学校行事に熱心に取り組んでいます。また、岸高卒業後は、京都大学や大阪大学をはじめとする難関大学への進学を希望しています。

限られた時間の中で、自分の希望をすべて実現することはたいへんなことです。生徒の皆さんの自己実現を支援するために、平成30年度入学生より、新たな取組みを2つスタートさせます。入学後に詳しい説明を行いますので、文武両道をめざす皆さんの積極的な応募を期待しています。



土曜日には、1年向け特別講習「岸高スーパー」(仮称)

岸高では、土曜午前を「学習タイム」として部活動を制限しています。家庭で学習したり学校で自習をしたりする生徒がいる一方で、朝寝などで時間を活用できない生徒もいます。定期的な講習に参加することで、生活のリズムが整えられ、共に学ぶ仲間から刺激を受け、学習意欲が維持できます。

- 国語・数学・英語の特別講習
- 土曜日午前中に90分2コマの講習
- 阪大・京大見学会等への参加、ハイレベルな記述模試の受験
- 希望者から80名を選抜

※ 9月からの講習については、7月期末考査前に募集し、1学期成績により選考する予定です。入学後に学習時間が減らないよう気をつけてください。



2・3年では「文系スーパークラス」「理系スーパークラス」(仮称)

岸高にはかつて「スーパークラス」が設置され、学習意欲の高い生徒が集まり皆の進路実現のために力を合わせていました。全クラス文理学科になるのを機に、「スーパークラス」を復活させ、より高いレベルの授業内容を実施します。授業の密度を濃くし、クラスの生徒が互いに高め合う環境を設けることで、文武両道を支援します。

- 文系スーパークラス(文スパ)と理系スーパークラス(理スパ)を、1クラスずつ設置
- 学習速度を上げて、演習等を充実
- 国語・数学・英語の「スーパー演習」を履修

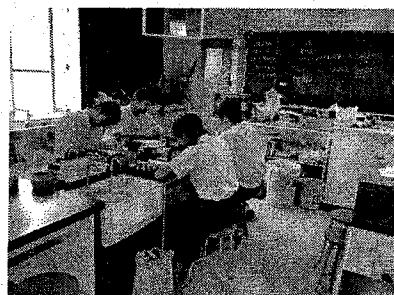
※ 希望者から、1年進研模試(11月記述)の成績により選考する予定です。「岸高スーパー」などで、模試への対策を行ってください。

※ 文スパ(40名)と理スパ(40名)は、2年から3年へのクラス替えや生徒入れ替え等はいりません。

岸高でやってみよう！「課題研究」

■「課題研究」ってなに？

各自の興味や関心に応じて疑問に感じたことや深く追究してみたいことを通じて、各自でテーマを設定し、研究しそれを発表するという内容の取り組みです。大阪府の文理学科では、この「課題研究」が必修となっています。



■課題研究でどのような力が身につくの？

- ・研究テーマ設定と研究活動 →思考力・探究力
- ・研究成果の発表やまとめ →発信力 がつきます。

大学入試でも有利に！

これらの力は、2020年度からの新大学入試では今以上に求められるようになりますので、頑張っ取り組めば AO入試や推薦入試など、将来の進路選択でも有利になります。 実際に卒業生の先輩のなかには、課題研究の成果が志望大学の合格につながった例もあります（大阪大学・筑波大学など）。

さらに、岸高ではGLHSやSSHの指定により校内外でさまざまな独自のイベントを実施していますので、希望に応じてさらに高度な力を身につけられます。

■岸高ではどのように課題研究を進めるの？

それぞれの学年で、主に以下の科目で課題研究に取り組みます。

- ・1年…『セレンディピティ』
- ・2年…『文理課題研究』
- ・3年…『キャリアスタートゼミ』

岸高では、3年間かけて課題研究活動を行います。岸高は、GLHSおよびSSHに指定されていますので、文科系理科系を問わずに充実した環境のもとで活動できます。研究内容やその成果によっては、全国規模のコンクールやコンテスト・発表会等に参加できるチャンスもあります。

【これまでにこんな研究テーマがありました】

- ・歌舞伎舞踊にみる恋愛感情の表現方法
- ・近未来予想～現代から見る地球の姿～
- ・アメリカと日本では名付け方にどのような違いがあるのか
- ・圧電素子を使ってLEDを光らせよう！
- ・本当に守れているのか！？—ハンドソープの殺菌力—
- ・メジロの亜種や性別は声で識別できる？
- ・変形サイコロの形による確率の違い など

多種多様な
研究テーマ！

3年：『キャリアスタートゼミ』
まとめ・論文作成
※文理学科理科でのみ実施

2年：『文理課題研究』
研究活動と成果発表

1年：『セレンディピティ』など
課題研究基礎・PC活用法など



■課題研究って難しそう。できるかどうか不安…。

心配しなくても大丈夫です！ 上でも説明したように、岸高では3年間かけて基礎からていねいに学んでいきます。これまでに課題研究に取り組んできたみなさんの先輩も、岸高での課題研究がはじめての研究活動だった先輩がほとんどで、地道に取り組むことでさまざまな成果をあげています。